

豊かな海を守り育てるには

季節：通年 時間：2時間

島根の漁業の現状と新たな取り組みについて調べてみよう。
身近な海岸で起こっている問題を調べ、美しく豊かな海を守り育てるために自分にできることを考え、行動しよう。



出典：しまね漁場マップ（島根県農林水産部水産課）

1. 島根の漁業の現状と展望

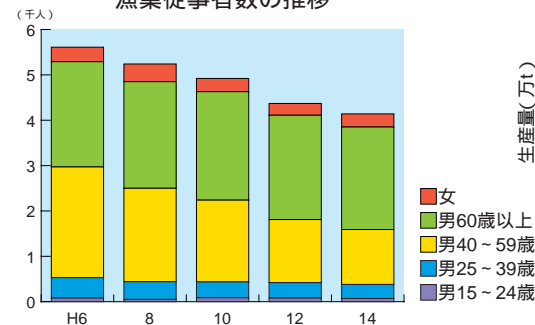
島根の海岸の沖合には、黒潮から分かれた対馬暖流が北東に向かって流れており、特に隠岐島周辺は、水産資源が豊富な日本海随一の好漁場となっています。

この豊かな漁場を活かし、島根の漁業は日本海区で有数の水揚げを誇っています。

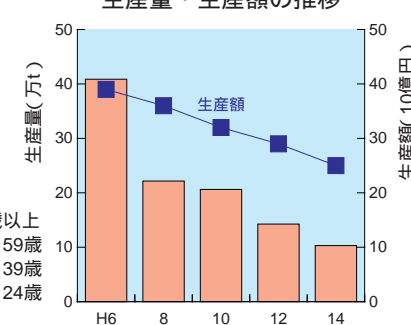
	数値	順位	
		日本海区	全国
漁業就業者数(人)	4,130	4位	23位
海面漁業・養殖業生産量(100t)	1,031	3位	16位
海面漁業・養殖業生産額(千万円)	2,507	3位	23位

水産統計からみた島根県の地位

漁業従事者数の推移



生産量・生産額の推移



しかし近年、水産資源の減少や漁場環境の悪化等により漁獲量が減少してきました。また、後継者不足と高齢化が進み、漁港・漁村は活気を失いつつあります。

こうした漁業生産量の減少傾向に伴い、新たな漁場開発を目指して、浜田市沖に国内最大級の高層魚礁（マンモスリーフ）が沈められました。このほか、2002年からの4年間で、大小あわせて700基の魚礁を沈める計画があります。こうした人工魚礁は、魚の産卵場やすみかとなり、安定した漁獲量の確保が期待されています。

また県では、「とる漁業」から「つくり育てる漁業」にも力を入れて取り組んでいます。魚はたくさんの卵を生みますが、成長する段階で大部分が死んだり、他の生物に食べられてしまうため、その多くは親魚になりません。そこで、稚魚の間は人間が保護しながら飼育し、自分でえさが取れる大きさに成長してから自然の海に放流するという栽培漁業を行い、水産資源を増やす活動を行っています。

さらに、品質の高さや希少価値をアピールして知名度を上げ、消費拡大や県への集客を図る目的で県産品のブランド化



マンモスリーフ(高さ40m、重さ109t)



栽培漁業



ブランド化商品：隠岐のいわがき

を推進しています。特に、「隠岐のいわがき・十六島のり・浜田のアジ・カレイ・ノドグロ」は、県内の観光地でも食べられる体制を整えたり、東京の高級スーパーマーケットやホテルなどでPRするなど、販路開拓に努めています。

都市に比べ立ち遅れている漁村の生活環境の改善、漁港の施設整備を充実させることにより、魅力ある漁村づくりを行うことが現在求められています。

2. 海の問題と地域社会の取り組み

漁村の暮らしと漁民の森づくり

沿岸の海藻が無くなり、それを食べて育つ貝類などの生物も死滅した状態を『いそやけ』といい、島根の海岸でも少しずつその傾向が見られるようになってきました。これは、海藻が繁殖するのに必要な栄養分が減少していること、コンクリートを使った護岸・堤防工事により海藻の繁殖しにくい海岸になったこと、生活廃水などによる水質汚濁などが原因として考えられます。港が整備されることによって安全性や利便性が向上する反面、生物環境の保護にとってはマイナス面もあるのです。

浜田市では、平成14年から「豊かな海は森林から」というキャッチフレーズで、「漁民の森づくり」がスタートしました。これは、「森の栄養を含んだ水が地下水や川から海に流れ込み、魚介類を育てる上で必要な栄養分をたえず補っている。また森は、海に流れ込む水や土砂の量を調節するなど、海の良い環境をつくる上で重要な役割を果たしている。」という、漁民が長い間の経験で得た知恵を元に、川の上流域の山林に植樹するとい



漁民の森づくり活動

うものです。現在では、西ノ島町や大社町などでも行われ、漁業関係者だけでなく、地域住民や小学生などのボランティアも参加して行われています。海とともに生きる漁民が協力し合い、自分達の力で豊かな海を守ろうとする取り組みの一例です。

環境保護活動

「恵まれた自然を子供たちに残したい。自然を守るために自分たちができることはないか。」という思いから、益田市で『Let's里再来』という環境保全活動が97年度にスタートしました。当初は益田青年会議所と高校生ボランティアグループの活動でしたが、その後市内のボランティア団体も加わり、毎年海の日には1,000人近い市民を巻き込んだイベントが開催されています。参加者全員で海岸清掃を行い、きれいになった海岸で廃材を利用したコンサートやフリーマーケット・廃油石けん作り・サーフィン教室など気軽に参加できる活動です。

近藤が浜（大田市）は、日本海岸のハマナス自生西限地として知られています。この貴重なハマナスは、昭和35年に県の天然記念物に指定され、災害や盗掘から守り育てていこうとするため、昭和41年にハマナス愛護少年団が結成されました。現在、静間小学校がその活動を引き継ぎ、地域のお年寄りや保護者とともにハマナス自生地周辺の清掃活動を行ったり、栽培をしながら観察を行ったりしています。



Let's里再来の活動の様子



ハマナス園清掃

海には自然物や人工物など、すべてのものが流れ着きます。豊かな海を守り育てるには、海だけに注目するのではなく、山・川・海など自然環境のつながりや私たちの生活環境を見直す必要があります。また、海は他の国々にもつながっており、その環境保全は全世界の共通課題なのです。美しく豊かな海を守るために、私たち一人一人ができることを考え、行動していくことが大切です。

参考

・島根県漁業の動き（中国四国農政局松江統計・情報センター）

ワーク

1 豊かな海を守り育てるには

調査日			
氏名		グループ	

作業1 身近な海で起こっている問題とそれに対する対応策や取り組みについて、市町村役場や漁業関連施設の人、地域住民の方々などいろいろな立場の人に聞いてみよう。

訪問先() 担当者()

問題点	対応策や取り組み

作業2 川の上流・中流・下流そして海は、水の循環を通して深いつながりがあります。豊かな海を守り育てるためには、それらの環境に対して、どんなことに気をつけ、どんなはたらきかけをしたらいいと思いますか。



(写真提供 国土交通省中国整備局 出雲河川事務所)

環境	はたらきかけること・気をつけること
海	
川	
山	
人間生活	